



サンビュー南海



新春号

第18号



2015



あけましておめでとうございます!



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

当施設も4月から独立行政法人地域医療機能推進機構南海医療センター附属介護老人保健施設へと名称が変わり、初めての正月を迎えることが出来ました。平成27年4月からは、介護報酬改定があり大きな変革期となります。当施設も本来の介護老人保健施設の役割である在宅復帰の強化・自宅での生活を継続できるようなサービスを提供していきたいと考えております。利用料金等の変更も予想されますので、後日家族交流会等でお知らせしていきたいと思ひます。

新しい年が素晴らしい一年となりますよう、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

南海医療センター附属介護老人保健施設

〒876-0857 大分県佐伯市常盤西町12-6 Tel.0972-20-5090

JCHO南海医療センター 院長 亀川 隆久

新年を迎えて



入所者の方々およびご家族の皆様、明けましておめでとうございます。

新年を迎え、それぞれに希望と夢を抱いておられることでしょう。皆様ご自身の体や心が健やかであると共に、ご家族が幸せに過ごされますよう心よりお祈り致します。

当施設では、全職員が力を合わせて、皆様が一日一日を明るく元気で過ごすことが出来るように頑張っていますので、どうぞご安心ください。

昨今は、日本ばかりでなく世界のあちこちで自然災害や、戦争や、もめごとが起きており、悲しい出来事が報道されない日は無いといってもいいくらいです。一日も早く、皆が支え合い、仲良く寄り添って過ごすことのできる時代になるようになって欲しいものです。今年もよろしくお祈り致します。



南海医療センター附属 介護老人保健施設 施設長 森本 章生

新年あけましておめでとうございます。平素より南海老健をご利用いただき誠にありがとうございます。今年は羊年。「歴史の影に羊あり、羊なくして歴史を語れず」という言葉がありますように、今年度は介護保険改定の年でもありますので、時代のニーズに沿える施設を目指していきたいと思っております。

昨年は観測史上初の大雪や大型台風、また、火山の噴火など地球の環境が大きく変化していることを示唆するような出来事があり、自然からの何かの警告かもしれませんね。当施設も平成26年4月より“サンビュー南海”から“独立行政法人地域医療機能推進機構南海医療センター附属介護老人保健施設”への移行という大きな組織の変化がありましたが、施設の名称が変わっただけで、これまでと同様の体制で入所や通所でのサービスを提供でき、皆様に御利用いただけているものと思っております。職員一同今年も色々と企画を用意してお待ちしておりますので、当施設の御利用のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



副施設長 岩田富士雄

明けましておめでとうございます。

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO=ジェイコー)という組織に移行し初めての正月を迎えました。昨年は、事務部門として移行前後の業務で大変慌ただしい1年を過ごしました。

国内では、台風や地震、そして火山の噴火と自然災害が多く発生し被害が尋常ではありません。早急に復旧を願うばかりです。幸いこの佐伯ではほとんど影響なく、ありがたいことです。さて、今年は「未(ひつじ)年」群れをなす羊は、『家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らす意味を持っている』との事です。施設の安泰を目指し、事故の無いよう安全に過ごしていければと思います。

本年もよろしくお願い申し上げます。

看護師長 三股 敦子



新年あけましておめでとうございます。

昨年に続き今年も長いお正月休みをいただき、おかげで心身ともにリフレッシュできました。今年もよろしくお願い致します。

さて、介護保険が始まって15年目を迎え、これまで様々な改定が行われ、今日に至っています。今、国は各自治体に地域包括ケア体制の充実を進めています。地域包括ケアとは高齢者が人生の最後まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるために必要な支援体制のことです。その構想の背景にあるのは日本は諸外国に例のないスピードで高齢化が進んでいることで、団塊の世代が75歳以上になる2025年以降医療や介護のニーズは一層高まる見通しです。国は2025年までに地域包括ケアを整え在宅生活を支えることを目指しています。老人保健施設も地域包括ケアの一環を担う施設として、在宅復帰を進め、役割を果たしていかなければなりません。これからも変革していく保険制度にご理解をお願いいたします。



介護福祉士長 川井 忠明

新年明けましておめでとうございます。2014年は皆様にとってどのような一年でしたでしょうか。当施設は昨年の4月1日より名称が変わりましたが職員ひとりひとりの思いは変わることなく利用者の方をお世話させて頂きましたが至らない面も多かったのではないかと感じております。さて、今年2015年は未年(ひつじ)ということですので未になんだ話をしたいと思えます。未は群れをなすところから「家族の安泰」を表すとされ、いつまでも「平和」に暮らすことを意味しています。未年の人は世話好きで、大人しい外見からは想像ができない程の情熱と芯の強さを持っているので、組織の中では補佐役や参謀役、あるいは人生の女房役といった裏方的な役割や仕事が適しています。又、物事を手堅く進めるので人生において大きな失敗や障害にぶつかることはそう多くはありません。美男美女が多いのも特徴のひとつです。周囲を気にせずマイペースで何事もやりとげる傾向があり、デリケートな事物にこだわりを持つ人が多いようです。未年生まれの有名人としては、八千草薫さん、高倉健さん、田村正和さんなどがおられます。以上、未年に関して簡単に述べさせて頂きましたが、今年一年何事にも情熱とこだわりを持ちながら過ごせたらと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



リハビリテーション室

室長 富松 満代

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。昨年、貴重な紙面の一面をお借りして「健康」をテーマに情報発信させて頂きましたがいかがだったでしょうか？年々高齢化が進み、子供の数が減り、おそらく今年は「介護予防」という言葉が世間に広まっていくと思われます。国民は自分自身で要介護状態になることを防ぎ、少ない若者に負担をかけ過ぎないように・・・ということです。よって、今年もやはり「介護予防」つまり「健康」をテーマに一年間取り組んでいきたいと思ひます。私たち理学療法士は一人一人に合った指導をすることが得意です。今年はこの強みを生かして頑張っていきたいと思ひます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

主任栄養士 御手洗 央



新年あけましておめでとうございます。
昨年は、私たち栄養課職員にとって、いまだかつてないほど超多忙な1年でした。
しかし、そのような状況であっても、いつも明るく笑顔あり、笑いありのチームワークのよい職場です。
常にご利用者の皆様の立場にたち、「美味しい食事は笑顔がつくる」をモットーに、これからも皆様に喜んでいただけるお食事の提供ができるよう努めたいと思ひます。



南海医療センター附属居宅介護支援センター 管理者 國部 昭夫

謹んで新春のお喜びを申し上げます。
居宅介護支援センターはおかげさまで昨年7月にて5周年を迎えることが出来ました。これも利用者を支える医療や介護関係者、また地域の皆様のご協力があったのことに深く感謝致しております。昨年は佐伯市でも「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」や「介護予防・日常生活総合支援事業」などの新しいサービスも始まり、国の動きをみると在宅医療・介護に力を入れているのがわかります。私たち居宅ケアマネジャーは「住み慣れた家で安心して生活したい」という利用者のごくごく自然な願ひを大切に、干支の羊のように暖かいウールで包み込むような支援を目指して、これからも皆様のお役に立てるように努めて参る所存です。今年も変わらぬご愛顧をよろしくお願ひ申し上げます。

門松作り

毎年恒例の職員による門松作りを行いました。寒波に負けず今年も良い門松が完成しております。ご来所の際は是非ご覧下さい。



完成！